



逸見 竹石 (へんみ ちくせき)

河北町名誉町民 昭和 54 年 4 月 4 日顕彰

明治 21 年 (1888) 西里村白山堂 (現河北町西里) に生まれました。西里尋常小学校を卒業後、谷地小学校の高等科 4 年を卒業し、西村山郡立西村山中学校に入学しました。この中学校が焼失したので、中学 2 年終了のまま農業に従事することになりました。

氏は家業のかたわら西川菊畦 (きつけい) に就いて漢学を学び、漢詩の添削をうけ、更に篆刻 (てんこく) を始めました。大正 2 年 (1913) に慈恩寺の俳句会「八千代会」に入り、やがて「春浅吟社」に参加しました。以来、俳諧の第一人者であった大須賀乙字 (おつじ) の指導を受けて、春浅吟社の有力社員として活躍しました。大正初頭、乙字が西川邸を訪れたときは終始同席して直接指導を受け門下に加わりました。

その後、ひたすら俳道に没頭して『落臺 (ふきのとう)』の選者となりました。そして、農業にいそしむ「土の俳人」として、全国的に認められました。また、篆刻は石井雙石に師事して数々の受賞を果たしました。

一方地方自治の面では、西里村収入役、西里村教育会会長、西里郵便局長、河北町誌編纂委員等多くの役職を歴任して多大な功績を挙げました。

こうした多方面の文化的活躍が高く評価され、第 1 回「河北町文化賞」を受け、有志より自宅庭に句碑が贈られました。